

## がんセンター

### スタッフ

センター長	中瀬 一則（血液内科）	
副センター長	福留 寿生（病理部）	
	森 多佳美（副看護部長）	
医師	常勤（専任）	3名
看護師	常勤（兼任）	1名
事務職員	常勤	1名
	非常勤	11名

### がんセンターの特色

がんセンターは、大学病院内の各診療科の縦割りの垣根を超えて、診療科横断的に、適切ながん集学的治療、チーム医療を推進するための活動を行っています。これまで、支援系統5部門、診療系統9部門の計14部門より構成されていましたが、三重大病院が小児がん拠点病院、がんゲノム医療連携病院の指定を受けていることより、診療系統部門に、5月より、がんゲノム医療部門、9月より、がんAYA世代治療部門を新たに設置し、それぞれの診療機能の整備・充実を進めることになりました。毎月、各部門のリーダー（医師）と県の医療保健部の担当者より構成されるリーダー会議を第一水曜日に開催し、病院内のがん医療についての情報共有や意見交換と県のがん対策の取り組みについて協議しています。

### 活動内容

がんセンターの定期的な活動として、大学病院全体で tumor board を主催して、毎月、第二水曜日に、画像診断や病理診断の専門医、外科手術、化学療法、放射線療法、緩和ケア等の専門医、さらに関連の薬剤師、検査技師、放射線技師、看護師、臨床心理士、MSW 等が一同に会し、担当診療科から提示される検討症例について、緩和医療を含めた病態に応じた治療方針や集学的治療戦略を迅速に進めるための協議を行っています。毎回、100名前後の多数の関係者が参加し、活発な討議を行なわれています。

また、がん医療に携わる医療従事者対象の早期からの緩和ケアを考える会を5月11日（金）に、緩和ケアフォローアップ研修会を8月26日（日）に、緩和ケア集合研修会を11月11日（日）（図1）に開催し、それぞれ26名、24名、46名の方が参加されました。県内の緩和医療の充実のために、がん医療に携わる医療従事者が必修の緩和ケア研修会だけでなく、研修後のメンテナンスやさらなるスキルアップを目指すための取り組みを続けています。



図1. 緩和ケア集合研修会

地域住民の方へのがん医療の啓発活動として、今年度も2回、市民公開講座を開催しました。5月13日（日）に、三重大学の三翠ホールで、「がんゲノム医療について」をテーマにして、「生命の駅伝」とのジョイント公開講座を行い、146名の方が参加されました。また、次年の3月21日（木、祝）には、津の三重県総合文化センター大ホールで、「がんの免疫療法について」をテーマにして、講演とパネルディスカッションを行い、これまでの公開講座では最高の1,253名の方が参加され（図2）、免疫チェックポイント阻害薬を中心とするがんの免疫療法についての関心の深さを実感しました。



図2. 津の総合文化センターでの市民公開講座

また、多職種連携事業として、医科歯科連携推進人材養成研修会を、7月1日（日）と1月27日（日）（図3）に、三重県歯科医師会館で開催し、それぞれ160名、122名の方が参加されました。この研修会には、毎回、多数の方が参加しており、歯科のない病院で、医科歯科連携を進めていくための取り組みについて、三重県の歯科医師会と協議を進めており、その一環としての口腔ケアステーションの設置について、情報共有、情報交換を行いました。



図3. 1月27日の医科歯科連携研修会

がん医療に携わる医師、薬剤師、看護師等の多職種連携の勉強の場として、第23回がんチーム医療研究会を、9月7日（金）に、ホテルグリーンパーク津で開催し、75名の方が参加され、各職種の交流を深めました。この研究会は、下記のがんプロフェッショナル養成プランのインテンシブコースとして開催しています。

大学病院内で、科学的根拠に基づいた「がん免疫療法」を適切かつ安全に実施することを目的として、がん担当診療科だけでなく、免疫関連有害事象の診断・治療に関連する診療科の医師、薬剤師、看護師さらに、医療安全管理部の職員をメンバーとする「がん免疫療法対策チーム」を7月に、がんセンターが中心となり結成し、活動を開始しています。

また、三重県のがん対策として、取り組んでいるがん教育事業について、がんセンターから、今年度



図4. 東員町の笹尾東小学校でのがん授業は5部門のリーダーの医師が、北は東員町（図4）から南は尾鷲の県内の小学校、中学校に出向いて、がん授業を行いました。三重県教育委員会主催の教

職員対象の講習会（鈴鹿と伊勢で開催）へも、がんセンターから講師として、リーダーの医師が参加しました。

がんセンターでは、文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」によるがん専門医療人の育成にも取り組んでおり、11月30日（金）に、大学院の5階大ホールで、連携する京都大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学が参加する5大学連携医療フォーラムを三重大学が主催して開催しました。三重大学が参加するこの5大学のグループは全国的に高い評価を受けており、今後も継続して、人材の育成を進めていく予定です。

がんセンターが集計した、2018年の三重大学医学部附属病院の院内がん登録のデータ（初回治療のみ）を下記に示します。

平成30年度の院内がん登録数(初回治療終了後はのぞく*)		
原発部位	ICDO-3	総計
口腔・咽頭	C00-C14	118
食道	C15	69
胃	C16	135
結腸	C18	117
直腸	C19-C20	78
肝臓	C22	99
胆嚢・胆管	C23-C24	40
膵臓	C25	126
喉頭	C32	20
肺	C33-C34	219
骨・軟部	C40-C41,C47,C49	45
皮膚(黒色腫を含む)	C44	200
乳房	C50	375
子宮頸部	C53	126
子宮体部	C54	94
卵巣	C56	53
前立腺	C61	227
腎・他の尿路	C64-C66,C68	140
膀胱	C67	69
脳・中枢神経	C700,C71,C722-C729,C751-C753	53
甲状腺	C73	46
悪性リンパ腫	959-972,974-975	109
多発性骨髄腫	973,976	11
白血病	980-994	33
他の造血器腫瘍	995-998	24
その他	-	104
<b>総計</b>		<b>2730</b>

\* (院内がん登録における症例区分が10, 20, 21, 30, 31のみ)